

阿部八郎 あべ やしろう 文藝評論家、ドイツ文學者。明治二十七年四月十一日山形縣生れ、昭和二十二年十一月七日歿（一九四一五七）。筆名瀨木達、砂髪頰、R・A。哲學者阿部次郎の弟。昭和二年京都帝國大學文學部獨文科卒。四年雜誌『白痴群』創刊同人。成城高等學校、東京藝術大學各教授歴任。『阿部八郎全集』全二卷（昭和二十二年五月十五日一六十二二年一月七日一穂社）刊。

著書、評論集『深淵の諸相』（昭和十一年十月、二十四日、文芸書店）、同

『地獄の顔』（昭和十六年五月十五日

中央公論社）、『岡本信一郎集・一』

（編）昭和十八年十月、二十五日、神奈川

・土迦會）、『神の影像』（昭和二十

二年十一月十五日、壯文社）、『根柢』

（阿部次郎、阿部余四男、合著、昭和二十二年一月、竹岡勝也）

十五頁、福岡・金文堂出版部）、『虛無と實存』（昭和二十二年十一月

十日、新潮社）、『ドストエフスキー』（昭和二十四年二月、二十八日、新

潮社『生ける田舎叢書』）等。

譯書、レオ・シエストフ著『悲劇の哲學』（河上徹太郎共譯、昭和九

年一月、二十八日、文芸書店。再刊、十四年十月十日、創元社『創元選書』、

二十九年十月二十日、新潮社『新潮文庫』）、ナリートリヒ・ニイチエ

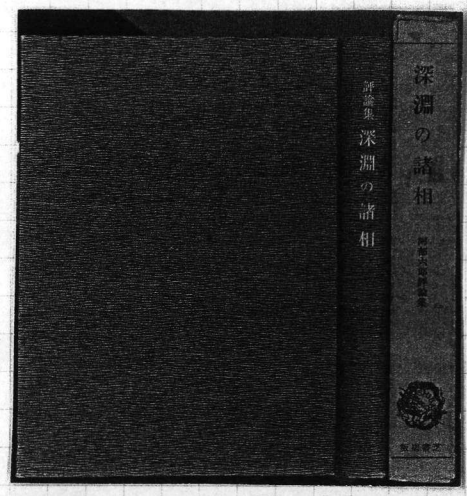
著『物質と悲劇—希臘族悲劇時代の哲學』（昭和

九年六月十五日、文芸書店。改題再刊『ナリードリヒ

ニイチエ著『悲劇時代の希臘哲學』（十九年二月一



（文芸書店）、ハウプトマン作『沈鐘』（昭和九年七月十五日、文芸書店）



店「岩波文庫」）、トオマス・タン著「ゴゼエ」(昭和十年五月十七
 日出版)、「コニエチエ篇」(譯著、昭和十二年十月、二十日第一書房
 「世界文豪讀本全集」)、ニエチエ著「惡意の知慧」(昭和十四年十
 月九日創元社「創元選書」)、フレンツ・ウエルノエル作「喪愁の
 家」(昭和十六年二月二日白水社)、ゲーテ作「親和力」(昭和二十
 四年八月十五日改選社)、ヤニエチエ全集「(一)悲劇の誕生」(昭和
 二十六年四月二十日)、Ⅲ「人間のなまより」(人間のなま・Ⅰ)二十五年
 十一月十五日、Ⅳ「人間のなまより」(人間のなま・Ⅱ)二十七年二月一
 十九日、Ⅴ「この人を見よ」(附・詩集)二十五年十月十日、Ⅵ「偶
 像の黄昏」二十七年十月二十一日(新潮社)、ニエチエ著「この人を見
 よ」(昭和二十七年七月十五日新潮社「新潮文庫」)、河「偶像の黃
 昏」(竹山道雄、水上英廣共譯、昭和二十二年一月十五日新潮社「新潮文庫」)、
 「人間のなまより」(人間のなま)全二冊(上卷・昭和二十二年二月一
 十日、下卷・二十五年新潮社「新潮文庫」)等。

